



## 山形大学医学部の重粒子線がん治療装置へ寄付しました



写真：(左)東北電化工業(株) 會津圭一郎社長、(右)山形大学医学部放射線腫瘍学講座 岩井岳夫特任准教授

山形大学医学部が平成 31 年秋の治療開始を目指す次世代重粒子線がん治療装置の研究開発を支援するため、東北電化工業(株)、システムエンジニアリング(株)、光電設(株)の 3 社が計 700 万円を寄付しました。これは、当社が平成29年に創立70周年を迎えるにあたり、その記念事業の一環として実施したものです。

11月30日、3社を代表して東北電化工業(株) 會津圭一郎社長が同大学を訪れ、岩井岳夫特任准教授から治療装置に関する一連の説明を受け、最後に目録をお渡ししました。

### 【重粒子線がん治療の特徴】

(山形大学医学部附属病院「次世代重粒子線放射装置」より)

1. 重粒子線はがん部位に集中的に照射可能な物理的性質があるため、一般の放射線に比べ正常部位への副作用・ダメージがより少ない。
2. がん細胞を殺す効果がより強いので、治療効果がより大きく、一般の放射線が効きにくいがんにも効果を発揮。
3. 線量集中性が高く一回の照射線量が高いことから、一般の放射線治療に比べ、治療期間が短く入院の必要性も減るため、社会生活上の支障がより少ない。